

一般社団法人日本老年歯科医学会
2019年度第6回理事会議事録

日 時：2019年12月13日(金) 15:30～18:15

場 所：日本歯科大学生命歯学部2階 第1会議室

出 席：佐藤裕二 理事長

羽村 章、那須郁夫 両副理事長

上田貴之、櫻井 薫、水口俊介、松尾浩一郎、渡邊 裕、小笠原正、菊谷 武、服部佳功、
菅 武雄、戸原 玄、小野高裕、河相安彦、眞木吉信、石黒幸枝、大野友久、柏崎晴彦、
高橋一也、岩佐康行、平野浩彦、米山武義、山崎 裕、植田耕一郎 各理事

森戸光彦 監事

陪 席：北川 昇、和田 健、中川量晴、小原由紀、佐川敬一郎、堀 一浩、大井 孝、赤松那保、
伊藤誠康、潮田高志、大神浩一郎、水谷慎介、川本章代、梅本文二、森田一彦、遠藤眞美、
田村暢章、岡田和隆、阿部仁子 各幹事

欠 席：下山和弘、片倉 朗、竹島 浩、弘中祥司、阪口英夫 各理事

山根源之 監事

金澤 学、宮原康太、尾崎研一郎、石川健太郎 各幹事

I. 開会の辞

羽村副理事長より、開会の辞が述べられた。

II. 理事長挨拶

佐藤理事長より、参集の御礼が述べられた。

III. 議長選出

定款第32条に則り、佐藤理事長が選出された。

IV. 確認事項

1. 定足数の確認

上田理事(総務担当)より25名の出席がある旨報告があり、定足数〔定款第32条、理事現在数(30名)の2分の1以上の出席〕を満たしている事が確認された。

2. 配布資料の確認

佐藤理事長より配布資料の確認がなされた。

3. 2019年度第4回理事会議事録

佐藤理事長より資料を元に説明があり、確認された。

4. 2019年度第5回理事会議事録

佐藤理事長より資料を元に説明があり、確認された。

V. 協議事項

1. 新規入会者の承認について

佐藤理事長より資料を元に説明があり、案の通り承認された。

2. 第 33 回学術大会（2022 年度）大会長について

佐藤理事長より、日本老年歯科医学会第 33 回学術大会の大会長に小野高裕理事が推薦され、案の通り承認された。

3. 老年歯科医学研究助成制度の廃止について

佐藤理事長より資料を元に説明があり、老年歯科医学研究助成制度を廃止することが承認された。

4. 多施設共同研究支援クラウドの導入について

佐藤理事長より資料を元に説明があり、多施設共同研究支援クラウドの導入および「多施設共同研究支援クラウド(JSG cloud)に関する規則」が承認された。

5. 第 24 回日本歯科医学会学術大会公募セッション演題募集について

佐藤理事長より資料を元に説明があり、第 24 回日本歯科医学会学術大会公募セッション演題を募集していることを会員に周知する旨、応募の際には A4 一枚程度の企画書を学術委員会に提出してもらう旨、会員の応募締め切りは 2020 年 1 月末を目途とする旨、最終的な応募演題の決定は学術委員会と理事長に一任する旨が承認された。

6. 在宅歯科 WS

佐藤理事長より、在宅歯科診療充実のための WS 開催に関する説明がなされ、羽村副理事長より WS 開催を提案するに至った経緯の補足がなされ、WS 開催の検討を行うことが承認された。内容、目的等に関しては在宅委員会で継続審議とし、来年度事業として事業計画・予算計画を提出してもらう予定である旨の補足がなされた。

菅理事より、多くの国会議員の方が在宅歯科診療に関心を持っており、議員の勉強会への在宅歯科診療に関する情報提供の依頼が多く来ている旨の補足がなされた。

VI. 報告事項

1. 会務報告

特になし

2. 総務報告

・理事会（メール会議）の進行について

上田理事より資料を元にメール会議の取り扱いについての説明がなされ、羽村副理事長より法令順守の観点から補足説明があった。メール会議の場合は発議者であっても、必ず全員が返答する必要がある旨、返信のない理事について督促を行う旨、改善の見られない場合は氏名を公表することもある旨が確認された。

・今後の会議予定

上田理事より資料を元に今後の会議予定の説明があり、確認された。2020 年 6 月 19 日(金)の理事会は 10:30~13:00 と例年よりも開催時間が早いため、宿泊・交通等の手配などに関して早めに行っていただきたい旨、理事会後に行われる認定医ポスターの審査も多くの理事の方にお問い合わせすることになる旨の補足がなされた。

・その他

上田理事より、各種委員会で作成したガイドラインやマニュアルを、体裁を整えて学会ホームページに掲載する旨、これにより「老年歯科医学」にページ番号が記載されるため論文の参考文献として活用可能となる旨の報告がなされた。

上田理事より、研修会開催を希望する委員会が多くある旨の説明があり、研修会の開催希望は研修委員会に提案し、研修委員会が調整し開催することが常任理事会で承認された旨の報告があり、確認された。

3. 学術報告

1) 学術委員会報告

水口理事(委員長)より資料を元に説明があり、口腔機能低下症の検査・管理についての検討、日本歯科医学会プロジェクト研究のテーマおよび研究課題の検討を行っており、長期的な計画としては、口腔機能低下症に関する新たな見解論文の策定、多施設共同研究支援クラウド(JSG cloud)の運用などを行う予定である旨の報告があり、確認された。

2) 第30回学術大会 実施および決算報告

米山理事(大会長)より、資料を元に第30回学術大会の実施報告があり、確認された。

渡邊理事(財務)より、資料を元に第30回学術大会の決算報告があり、確認された。

3) 学会設立30周年記念大会 準備状況

水口理事(大会長)より、資料を元に学会設立30周年記念大会の準備状況の報告があり、確認された。

4) 学会設立30周年記念式典および祝賀会 準備状況

河相理事(祝賀会実行委員長)より、学会設立30周年記念大会の準備状況の報告があり、確認された。佐藤理事長より学術大会1日目の2020年6月19日(金)の夕刻に新旧理事、幹事の懇親会を行う予定である旨の補足がなされた。

5) 第32回学術大会 準備状況

河相理事(大会長)より資料を元に第32回学術大会の準備状況の報告があり、愛知学院大学の武部純教授が第32回学術大会の実行委員長となった旨の補足がなされ、確認された。

6) 2018-2019年度 日本歯科医学会プロジェクト研究

戸原理事より、2018-2019年度 日本歯科医学会プロジェクト研究の進捗状況の報告があり、確認された。

7) 2019-2020年度 日本歯科医学会プロジェクト研究

平野理事より、2019-2020年度 日本歯科医学会プロジェクト研究の進捗状況の報告があり、確認された。

4. 編集報告

・認定医審査症例レポートの「老年歯科医学」への掲載について

松尾理事より、専門医申請者の増加を促すために、専門医取得に必要な論文として、認定医審査で発表した症例を3000~5000字程度の症例報告の形式でまとめた「認定医審査症例レポート」が認められることとなった旨、著者は申請者と指導医の2名とする旨、レポートは編集委員会で作成したテンプレートに沿って記載させる旨、掲載料は著者が負担する旨、学会誌には

目次のみを記載し、PDF を学会ホームページ上に掲載する旨、査読は認定審査を行った 2 名の審査員から 1 名と編集委員会もしくは認定委員会から 1 名の計 2 名で行う旨の報告がなされ、確認された。査読者の指名は編集委員会委員長が行う旨の補足があり、合わせて確認された。

・事後抄録のオンライン公開について

松尾理事より、事後抄録は学会誌に掲載するだけであったが、今後は学会誌への掲載と合わせて学会ホームページに PDF を掲載する旨の報告があり、確認された。

・その他

松尾理事より、「老年歯科医学」への投稿状況の報告があり、例年通り多くの論文投稿があった旨、今後も多くの論文投稿をお願いしたい旨の補足がなされた。また、学術大会で開催されたシンポジウム内容に関する寄稿を依頼することがある旨の説明がなされ、確認された。

5. 財務報告

1) 月次決算報告

渡邊理事より資料を元に報告があり、確認された。

2) 会費未納者について

渡邊理事より資料を元に報告があり、確認された。

各理事に対して、連絡可能な会費未納者に対する声掛けの依頼がなされた。

6. 各種委員会 2018 年度活動報告および 2019 年度活動計画

1) 教育委員会

小笠原理事(委員長)より資料を元に、歯科訪問診療の卒前・卒後教育、大学病院の臨床実習実態のアンケート調査、診療参加型臨床実習マニュアル「移乗介助」、「嚙下内視鏡検査」の作成、歯学部教育基準案の作成、2019 年度歯科衛生士学科教育基準案の作成を行っている旨の報告があり、確認された。

協 7) 診療参加型臨床実習「移乗介護」マニュアル案について

協 8) 診療参加型臨床実習「嚙下内視鏡検査」マニュアル案について

小笠原理事(委員長)より資料を元に説明があった。上田理事より、常任理事会で内容について承認されたが、本マニュアルがどのような目的で作成されたのか、SBO や GIO も含めて冒頭に明確に記載しないと、医科や他学会の方に誤解を与える恐れがあるのではないかとの意見が出された旨の補足がなされ、教育委員会で冒頭の文章を追加作成することが確認され、最終的には教育委員会と理事長に一任することが承認された。

協 9) 老年歯科医学 教育基準 改定案について

小笠原理事(委員長)より資料を元に説明があり、眞木理事より、教育基準内で使用されている用語が適切なものであるか、最終的に確認して欲しいとの意見が出され、期限を決めて学術用語委員会で用語の検討作業を行うこと、最終的には教育委員会と理事長に一任することが承認された。

2) 社会保険委員会

菊谷理事(委員長)より資料を元に、歯保連試案について協議を行っている旨、2020年度診療報酬改定における医療技術評価提案書として、「終末期口腔機能管理」、「口腔機能包括機能検査」、「オンライン診療」、「血圧検査」についての提案書を提出した旨、細菌カウンタとペコパンダの医療機器承認への支援を行っている旨の報告があり、確認された。

3) ガイドライン委員会

服部理事(委員長)より資料を元に、「口腔乾燥症の診療ガイドライン」、「脳卒中患者への医科歯科連携に関するガイドブック」の作成を行っている旨、学会設立 30 周年記念大会において、口腔乾燥症の分類案についての説明会を開催する予定である旨の報告があり、確認された。

協 10) 「脳卒中患者への医科歯科連携に関するガイドブック」について

服部理事(委員長)より資料を元に説明があり、案の通り承認された。

4) 在宅歯科医療委員会

・在宅歯科医療に関わる研修会の開催について

菅理事(委員長)より資料を元に、日本歯科医学会連合の「日本在宅歯科医療・介護連携推進連絡協議会」において全国の在宅歯科診療や多職種連携の事例の収集を行っている旨の報告があり、確認された。

5) 摂食嚥下リハビリテーション委員会

・摂食機能療法専門歯科医師認定者の活動状況の確認について

戸原理事(委員長)より資料を元に、2019年度の摂食機能療法専門歯科医師の認定審査が完了した旨、厚生労働省委託研究で行っている訪問診療を推進するマニュアルを作成するうえで、ICTを利用したオンライン診療の症例収集や、実施状況の実態調査を行っている旨、摂食機能療法専門歯科医師が開催しているセミナーの内容、受講料、ウェブサイトの有無などについて web上の専用解答フォームで情報を収集する予定である旨の報告があり、確認された。

6) 国際渉外委員会

小野理事(委員長)より資料を元に、第2回 TAGD-JSG summit が 2020年3月8日に開催予定であり、発表者を募集する旨の報告があり、確認された。

7) 広報委員会

河相理事(委員長)より資料を元に、学会広報活性化のために、どのように SNS を活用していくかを検討しており、SNS を利用して学術大会の講演内容を一部共有する方法の検討などを行っている旨、支部セミナーへ参加した方は、積極的に SNS への投稿を行い、広報活動の活性化に協力いただきたい旨、学術大会で行ったアンケート結果より、ニュースレターは、当面は現状のままオンラインに掲載するとともに紙媒体を継続する旨の報告があり、確認された。

8) 研修委員会

潮田幹事より資料を元に、研修会の開催、学会設立 30 周年記念大会でのシンポジウムおよび教育講演の企画を行っている旨の報告があり、確認された。

9) 学術用語委員会

眞木理事(委員長)より資料を元に、学会設立 30 周年記念大会の学術ミニシンポジウム「多職種連携におけるコミュニケーション・ツールとしての用語の重要性」の講師候補者が 3 名上がって

いる旨、老年歯科医学用語辞典第3版のために追加で解説する必要のある用語の選定を行った旨の報告があり、確認された。

10) 歯科衛生士関連委員会

石黒理事(委員長)より資料を元に、2019年度認定歯科衛生士認定審査が行われた旨、2020年11月頃に「有病者への口腔機能管理」というテーマで主催セミナーを開催する予定である旨の報告があり、確認された。

協 11) 認定歯科衛生士専門審査制度運用申し合わせについて

石黒理事(委員長)より資料を元に説明があり、「認定歯科衛生士専門審査制度運用申し合わせ」は案の通り承認された。

11) 認定制度委員会

大野理事(委員長)より資料を元に、「認定医審査症例レポート」の投稿期間は認定医取得から1年以内とする旨の報告があり、松尾理事より、来年度は暫定期間として3年前までの発表症例は投稿可能とする旨の補足があり、確認された。症例レポートを作成するにあたり、現状の認定医審査ポスターの作成要領が分かりにくいため、[目的]、[症例および処置]、[結果と考察]の順に記載できるひな型を新たに作成した旨、症例報告の抄録作成にあたり患者からの同意取得を義務とする旨、専門医書類審査の要件である、医療倫理、医療安全、救命救急の受講に関して、受講が困難な方は学会ホームページからアクセス可能な eAPRIN (e-learning)を活用するように整備する旨の報告があり、確認された。

協 12) 2019年度専門医および指導医の認定について

大野理事(委員長)より資料を元に説明があり、案の通り承認された。

12) 認定試験実施委員会

柏崎理事(委員長)より資料を元に、2019年度日本老年歯科医学会専門医試験が実施された旨、2020年度学術大会における認定医ポスタープレゼンテーションの実施・運営を行う予定である旨の報告があり、確認された。

13) 専門医試験問題作成委員会

高橋理事(委員長)より資料を元に、専門医試験の問題作成を行った旨、試験後に問題の正答率分析の結果を認定制度委員会委員長に報告した旨、過去にブラッシュアップされた未使用問題の整理および使用問題の再使用の検討を行う旨、専門医試験の採点方法を手作業からマークシートをSCANする方法に変更する予定である旨の報告があり、確認された。

14) 多職種連携委員会

岩佐理事(委員長)より資料を元に報告があり、確認された。今後事後抄録をホームページに掲載する際に、キーワードを複数入れるようにすれば、会員が興味ある演題を検索しやすくなるのではないかとの意見が出され、編集委員会と検討することが確認された。

15) 支部組織・地域保健医療福祉委員会

平野理事(委員長)より資料を元に、支部セミナーの開催支援、第31回学術大会でのシンポジウムの企画提案を行った旨の報告があり、確認された。支部長不在の支部が山形県のみであり、適任と思われる方がいれば、推薦いただけるように要請がなされた。

16) 学会間連携委員会

佐藤理事長より資料を元に説明があり、口腔乾燥症用語の分類検討、「2020 年度版抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン」の作成を行った旨の報告があり、確認された。

17) 表彰委員会

・優秀奨励論文賞(ライオンワード)の募集要項の見直しについて

米山理事(委員長)より資料を元に、優秀奨励論文賞(ライオンワード)の募集要項を見直し、学術論文について、「原著論文・臨床論文・症例報告・調査報告など」という記載に変更し、応募方法に委員会推薦を追加した旨の報告があり、確認された。

18) 規程委員会

遠藤幹事より資料を元に説明があり、確認された。

19) 倫理委員会

田村幹事より資料を元に、2020 年度の学術大会に向けて、倫理教育・倫理審査の普及を目的として、「倫理に関する基本的な啓発」を 2020 年 6 月 30 日発行のニュースレターNo. 40 まで全 10 回連載する予定であり、現在は連載 7 回目まで掲載済みである旨の報告があり、確認された。

20) 倫理審査委員会

山崎理事(委員長)より資料を元に、倫理審査申請のあった研究に対して迅速診査を行った旨、第 31 回日本老年歯科医学会学術大会の演題登録における倫理審査関連の項目を整備した旨、倫理審査申請書の雛形の修正を行った旨の報告があり、確認された。

・学術大会発表演題に関わる研究倫理への対応について

山崎理事(委員長)より、2020 年 6 月に開催される学会設立 30 周年記念大会から、症例発表を除き、人を対象とした研究発表の場合は倫理審査が必要である旨、症例報告とは、症例数 3 例で、統計的処理を行わず、一般的な日常診療を逸脱しないものである必要がある旨の説明があり、確認された。

21) 利益相反委員会

植田理事(委員長)より資料を元に説明があり、確認された。

22) 特任委員会

佐藤理事長より資料を元に、代議員の選出方法について協議を行った旨の報告があり、選出方法は現状のままとし、状況を見て適宜変更の必要性を検討することとなった旨、代議員は社員総会へ出席することが義務であることを立候補する際に注意事項として提示する旨の報告があり、確認された。

7. 選挙管理委員会報告

上田理事より資料を元に報告があり、本学会正会員に郵送される一般社団法人日本老年歯科医学会代議員の選出について(公告)に、代議員に選出された方は、任期中に開催される社員総会への出席をお願い致します。という文面が追加された旨、代議員に立候補した方は社員総会に出席が職務であることを承知しているとみなされる旨が確認された。また、代議員に郵送される一般社団法人老年歯科医学会理事の選出について(公告)に、理事へ選出された方は、任期中に開催される理事会(メール会議含む)および社員総会へのご出席をお願いいたします。という文面が追加された旨、理事に立候補した方は理事会および社員総会への出席、メール会議への返答が職務であることを承知しているとみなされる旨が確認された。

8. 令和元年度老健事業報告

小原幹事より、令和元年度老健事業の進捗状況の報告があり、確認された。

9. 令和元年度厚生労働省委託事業報告

水口理事より、令和元年度厚生労働省委託事業の進捗状況の報告があり、確認された。

10. 日本歯科医学会報告

佐藤理事長より報告があり、確認された。

- ・日本歯科医学会 令和元年度 JDSR 誌執筆者推薦について

松尾理事より、令和元年度 JDSR 誌執筆者に平野理事を推薦する旨の報告があり、確認された。

11. 日本歯科医学会連合報告

佐藤理事長より報告があり、確認された。

12. 日本歯科専門医機構報告

佐藤理事長より資料を元に、新たな歯科専門医創設のためのワークショップの参加報告がなされ、総合歯科専門医に対する本学会の関わり方を検討する必要がある旨の補足がなされ、合わせて確認された。森戸監事より、老年歯科医学会が関わる専門医の名称としては、「総合歯科専門医」という大きなまとめ方をするのではなく、「訪問歯科診療専門医」や「周術期口腔管理専門医」など、より細かく区分するという考え方もあるのではないかとの意見が出された。

13. 日本歯学系学会協議会報告

羽村副理事長より、資料を元に 2020 年 1 月 30 日(木)に一般社団法人日本歯学系学会協議会の第 17 回講演会「基礎と臨床の連携」が開催される旨の報告があり、確認された。

14. 歯学系学会社会保険委員会連合報告

羽村副理事長、菊谷理事より、歯保連試案の冊子が 2020 年 4 月～6 月に完成する見込みである旨の報告があり、確認された。

15. 日本老年学会報告

- ・IAGG-AOR2023 の招致決定について

櫻井理事より資料を元に説明があり、IAGG-AOR2023 が日本で開催されることが決定し、2023 年 6 月 11 日(日)～18 日(日)に開催する予定である旨、IAGC/AOR にネパール、スリランカ、インドネシアが新たに参加することとなった旨、IAGG2029 の京都での開催を目指して招致活動を行っている旨の報告があり、確認された。

・将来計画委員会報告

上田理事より、平野理事とともに将来計画委員会へ参加した旨の報告があり、代議員数の見直し、老年工学の推進等の方針が新井理事長から示された旨の報告があり、確認された。

16. その他

水口理事より、学会設立 30 周年記念大会のポスター、チラシが完成した旨、講演会の際などに広報、宣伝として活用いただきたい旨の説明があり、確認された。

上田理事より資料を元に、日本老年学会が2月1日を「フレイルの日」として日本記念日協会に申請し承認された旨の報告があり、確認された。

VII. 閉会の辞

那須副理事長より、活発な議論への御礼と閉会の辞があった。

以上